

2025 年度(令和 7 年度)一般選抜型入試 後期
地理歴史【歴史総合・世界史探究】問題用紙 No. 1

※解答はすべて解答用紙に記入すること。

I. 以下の文章を読み、問に答えなさい。

帝国主義に基づき、ヨーロッパの列強はアフリカ大陸で植民地獲得の競争を繰り広げた。その競争が列強諸国間での戦争となることを回避し、利害を調整することを目的に、(①) によって (a) ベルリン会議(別名、ベルリン＝コンゴ会議とも称される) が開催された。これ以降、アフリカの獲得競争が激化することになった。例えば、イギリスは (②) 運河株式会社の株を買収して最大株主となることで、(③) の内政に干渉し、さらにこれに反発した (③) 人の民族運動を武力で弾圧し、最終的には軍事占領した。そしてその南部にある (④) の民族運動も鎮圧して征服し、さらに南下した。そして彼らはアフリカの最南部を支配していたオランダ系植民者の子孫のブール人と軍事的に衝突して、その支配下にあった国々も併合した。その結果、イギリスはアフリカ大陸の南北に位置するケープタウンと (⑤) をつなぎ、さらにインドの (⑥) の3点をつなぐ壮大な植民地政策を展開した。これを (⑦) 政策という。

またイギリスに並んでアフリカに巨大な植民地を有したのがフランスであった。フランスは、地理的にも比較的近いアフリカ北西部を中心に、(⑧) 世紀前半にはアルジェリアを支配し、その約半世紀後には (⑨) を保護国としたのち、(⑩) 砂漠を超えて、マダガスカルまでを支配下に置こうとした。この際に、イギリスと一触即発となったのが、その地名に由来する (⑪) 事件である。その後フランスとイギリスは、遅れて植民地獲得に乗り出したドイツに対抗するために、1904年に (b) 英仏協商を結んだ。実際、(⑫) 世紀末からは、他のヨーロッパ諸国も植民地獲得に乗り出し、結局、数十年間のうちに、アフリカ大陸は中東部にある (⑬) と中西部のリベリア以外はすべてがヨーロッパ諸国の植民地となった。

イギリス国内では、(⑭) 革命によって、経済的、政治的に発言権を増した市民が参政権を求めて、1832年には第一回 (⑮) が行われた。また、(c) 自由貿易の推進のために、従来の法律が廃止されたり、宗教差別を制限するために1829年に (⑯) 解放法が出されたりした。他方、(⑰) 革命は、イギリスに限らず他の主要なヨーロッパ諸国の大都市部において、劣悪な労働環境や生活環境にある人々を多く生むこととなった。(d) こうした社会問題については、イギリス、フランス、ドイツでそれぞれ代表的な思想家による新たな思想やそれに基づく政治運動が生じた。

問1 空欄①から⑬について、適切な語句を答えなさい。(同じ番号には同じ語句が入る。)

問2 下線部(a) ベルリン会議について、1行以上解答欄におさまる範囲でできるだけ具体的に説明しなさい。

問3 下線部(b)の英仏協商について、1行以上解答欄におさまる範囲でできるだけ具体的に説明しなさい。

問4 下線部(c) について、該当する法律を挙げ、その概要を簡潔に説明しなさい。

問5 下線部(d) について、それぞれの国で代表的な思想家を挙げ、そのうち一人を選んで、代表的な著作物もしくは展開した運動等について1行以上解答欄におさまる範囲でできるだけ具体的に説明しなさい。

II イスラーム文化についてあなたの知るところを1行以上解答欄におさまる範囲でできるだけ具体的に説明しなさい。

2025 年度(令和 7 年度)一般選抜型入試 後期
地理歴史【歴史総合・世界史探究】問題用紙 No. 2

※解答はすべて解答用紙に記入すること。

Ⅲ 以下のAからDの文章を読んで、以下の間に答えなさい。

A オスマン帝国はビザンツ帝国を滅ぼし、その後、スレイマン1世紀は北アフリカ、イラク、ハンガリーを自らの帝国の領域とし、イスラーム法にもとづく政治を行なった。他方で帝国内に住む、キリスト教徒やユダヤ教徒の共同体には自治を認め、イスラーム教徒と共存させた。地中海貿易などの商業が発展し、帝国は経済的に繁栄した。しかし、(1)包囲の失敗で領土は縮小していくこととなった。

B インドではムガル帝国が成立し、第三代皇帝アクバルは非ムスリムに課せられたジズヤを廃止し、ヒンドゥー教徒との融和を試みた。このころには、ヨーロッパの各国が進出してきて貿易拠点を各地に築き、インドの綿織物はヨーロッパなどに輸出された。しかしアウラングゼーブが皇帝になると商品生産には積極的には関与せず、ヒンドゥー教の寺院の破壊やジズヤの復活を命じて非ムスリムの反発をまねいた。

C ベトナムでは阮福暎が(x)人の協力のもと阮朝を建てたが、(x)がカトリックへの迫害を理由に軍事介入を行い南部の(2)を占領した。その後劉永福が率いる黒旗軍による抵抗に対し、(x)はベトナムの北部と中部まで支配下に置いた。しかしこれに対して(y)はベトナムの宗主権を主張し戦争となったが、最終的には(y)はベトナムが(x)の保護国となることを承認した。

D イランで最盛期を迎えていたサファヴィー朝はイスラーム教の(z)派を国教として、美しいモスクや宮殿を誇る首都(3)は繁栄した。生糸などを輸出し、アジアだけでなくヨーロッパ諸国との通商関係を結んだ。

問1 上記のAからDの4つの文章のうち、描かれている時代が他と異なるものが1つある。それを文章の記号で答えなさい。

問2 文中の(1)、(2)、(3)にあてはまる当時の都市名、(x)、(y)にあてはまる当時の国名、(z)にあてはまる名称をそれぞれ答えなさい。

問3 Bの文中下線部にある「ジズヤ」とは、日本語で言うとな何のことなのか答えなさい。

Ⅳ 以下の文章を読んで、間に答えなさい。

1914年6月、ボスニア・ヘルツェゴヴィナの(1)で、オーストリアの皇位継承者夫妻がセルビア人によって暗殺されたことをきっかけに第一次世界大戦は始まった。(a)の後援を得たオーストリアはセルビアに宣戦布告し、(a)は8月には(b)に宣戦布告した。日英同盟を結んでいた日本は(a)に宣戦布告した。日本は11月には(a)のアジアにおける拠点(2)を奪った。また、この大戦中にオスマン帝国領の再配分をめぐって、イギリス、(b)、(c)はサイクス・ピコ協定を結び、他方イギリスは、フセイン・マクマホン協定を結びながら、バルフォア宣言を行った。この3つの取り決めは矛盾したものであり、のちに、今日まで続く争いの原因を作ることになった。オスマン帝国において大戦中にイスタンブールの防衛で名をはせたムスタファ＝ケマルは、トルコ人の主権と領土を守るために抵抗運動を組織し、(3)にトルコ大国民議会を招集して革命政権を樹立した。

問1 文中の(1)、(2)、(3)にあてはまる地名、(a)、(b)、(c)にあてはまる国名をそれぞれ答えなさい。

問2 文中にある、「サイクス・ピコ協定」、「フセイン・マクマホン協定」、「バルフォア宣言」の内容を回答欄に収まる範囲で簡単に説明しなさい。

問3 文中のムスタファ＝ケマルはのちに、「父なるトルコ人」を意味する名称で呼ばれることになるが、その名称を答えなさい。

2025 年度(令和 7 年度)一般選抜型入試 後期
地理歴史【歴史総合・世界史探究】解答用紙 No. 1

※解答はすべて解答用紙に記入すること。

I.

- 問1 ① _____ ② _____ ③ _____
④ _____ ⑤ _____ ⑥ _____
⑦ _____ ⑧ _____ ⑨ _____
⑩ _____ ⑪ _____ ⑫ _____
⑬ _____ ⑭ _____ ⑮ _____

問2 _____

問3 _____

問4 法律名： _____
概要： _____

問5 イギリス： _____
フランス： _____
ドイツ： _____
概要： _____

II.

問1 _____

受験 番号		氏 名		*	*
----------	--	--------	--	---	---

*の欄は記入しないこと

2025 年度(令和 7 年度)一般選抜型入試 後期
地理歴史【歴史総合・世界史探究】解答用紙 No.2

※解答はすべて解答用紙に記入すること。

Ⅲ

問1 _____

問2 都市名 (1) _____ (2) _____

(3) _____

国名 (x) _____ (y) _____

名称 (z) _____

問3 _____

Ⅳ

問1 地名 (1) _____ (2) _____

(3) _____

国名 (a) _____ (b) _____

(c) _____

問2 サイクス・ピコ協定 _____

フセイン・マクマホン協定 _____

バルフォア宣言 _____

問3 _____

受験 番号		氏 名		*	*
----------	--	--------	--	---	---

*の欄は記入しないこと

